

市長が行く

No. 33

茂原市長 田中豊彦



長生病院の黒字化

去る8月15日、日本大学は、同大医学部付属練馬光が丘病院の運営を、平成24年3月をもって終了すると発表しました。病院開設時からの累積赤字が約90億円にのぼり、経営維持は困難と判断したと説明しています。民間病院は行政からの支援を受けていないので、赤字が膨れれば、その穴埋めは自分の力で処理しなければならず、巨大団地の光が丘をバックに私大の雄である日大でさえも限界を感じ、撤退せざるを得ないほど今日の日病院経営は困難なものだということ、改めて感じさせられました。

さて、そこで私たちの地元ではどうかという、公立で運営している長生病院は平成22年度、開設以来初めて黒字（約1億5千万円）になりました。もともと、今まで同様1市6町村からの財政援助（約8億8千万円）はありますが、それでもずっと赤字だった病院経営が黒字になったことは、大変喜ばしいことだと思っております。少なくとも病院が無くなるということを回避できるだけでも大きなことです。今回の黒字化は、昨年初めに財務省から高金利で借り入れしていた約20億円の借入金を低金利に借り換えることで、10年間で約6億1千万円の軽減が図られたこと、経営の効率化を図るため、病床数を231床から180床へ、看護師配置を入院患者10人に対し1人の体制から7人に対し1人に変更し、手厚い看護体制としたことで、診療点数が加算され、増収につながったことが大きな要因になっております。なかでも、長年

高金利で借りていた財務省からの借入金の低金利への変更が出来たことが、一つのポイントでした。当然のことですが、経営が黒字化にならないければ、金利を払うことはもちろん元本すら払えない状態が生ずることになります。その点を踏まえ、近い将来に黒字化になるためのコミュニケーションを作り、辛抱強く財務省の説得に当たったことが功を奏したと思います。もちろん医療従事者である医師や看護師、他の医療スタッフの協力が無ければ急激にここまでの改善はできなかったことでしょう。本当にありがたいことと感謝いたしております。

ただ、現在の黒字は構成市町村から基準以上の財政援助があつたものであります（茂原市分…約5億8000万円）。もちろん、救急医療や高度医療等の不採算部門に対する援助は必要ですが、基準内の援助に近づけるための努力は必要であり、今後も一歩一歩進めていくしがあります。まだまだ今までの累積欠損金（約45億円）もあるので！住民により良い医療サービスに提供できるか、また医師の確保等も含め問題は山積しております。そんな中、今年から桐谷病院長に病院経営を任せることになりました。今までは、病院の管理全体は広域行政の管理者である私に任ざれておりましたが、今後は病院長が病院事業管理者となり、さらに効率よく病院経営を進めていってくださることと期待しております。